

障がい者と一緒に里山トレッキング

取組に至る背景・事業の目的

グリーンシーズンの白馬村は、冷涼な気候を求めて、スキー場のゴンドラを使って容易に標高1000m以上に行けることから、高山植物見学や秋の紅葉を目当てにくる観光客で賑わっている。しかし、白馬村では車いすに乗っている障がい者はゴンドラに乗れない、もしくは乗れたとしてもゴンドラステーションから外に出られない状況である。

また、パラリンピックを開催した白馬村には、障がい者に対応できる宿泊施設もあるにもかかわらず、その方たちが楽しめるアクティビティが少ないのが現状。

そこで、本事業を活用して、障害者もトレッキングを楽しめる「トレイルライダー」を購入し、ご自身で歩行が困難な方でも健常者と同じように山での風景の移り変わりや風を感じられる環境を作る。

- ①歩行が困難な方への自然志向の享受支援
- ②グリーン期における歩行が困難な方のアクティビティ増加

事業内容

日本での障がい者登山では、2輪もしくは4輪の車いすを4、5人で引いている。しかし、「トレイルライダー」は1輪車であり、前後2名で扱うことができるとともに路面が悪いところでも平衡を保つことができる。これは全国的にもほとんど前例がなく、先進的事例になりうる。今回購入したことで「トレイルライダー」の使用はアジア初のこととなった。

運用は、基本的に白馬五竜高山植物園を利用させてもらい、7月中旬から10月中旬のクローズまでの期間でエスカルプラザ2階に設置した。

障がいを持っている方もトレッキングを通して当たり前のように自然を楽しめる環境を作る第一歩となる事業となった。



【トレイルライダー乗車風景】

事業効果

乗車数はまだ少ないが、白馬村では難しかった歩行困難者が自然と身近に触れ合うことのできる受入体制ができた。乗車した方の満足度はとても高かった。また、バリアフリー対応宿泊施設や白馬村社会福祉協議会との人的ネットワークが構築された。

各種イベントにおけるトレイルライダーの紹介と体験してもらうことで、安全性や機能性などを宣伝できた。

本事業や試乗体験においてトレイルライダーを引くボランティアスタッフが集まった。

(初年度) 乗車数 2名 体験会参加者数 80名 新規ボランティアスタッフ 4名追加

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

まだ白馬村内や近隣市町村、自然との触れ合いを求めている歩行困難者への周知が足りないと思われるため、周知活動が最重要である。また、天気や季節に合ったコースを利用者に提供するためにトレイルライダーを使えるエリアの開拓、ボランティアスタッフの新規登録や技術向上、周知のための試乗体験会の実施も引き続き取り組んでいく。

【選定のポイント】

より一層のPRや体制整備を行うことにより、障がいを持っている方や高齢者が自然を楽しめる環境整備が拡充されることが期待できる。

団体名 特定非営利活動法人 Mt. on trail club (白馬村)	事業タイプ	ソフト・ハード
連絡先 090-2770-4636	事業費	748,990円
ホームページ http://mt-on-trail-club.jimdo.com/	支援金額	496,000円
メールアドレス mt.on.tc@gmail.com		